

□目次

1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 18 回)

●「第2回EST普及推進フォーラムを終えて」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局 山下 恭弘】  
(交通エコロジー・モビリティ財団理事長)

2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第 18 回)

●「豊中市の EST モデル事業について」

【豊中市環境政策室地球温暖化対策チーム 土井博司】

3. ニュース／トピック

●自転車通行環境整備のモデル地区を指定しました【国土交通省、警察庁】

●鞍ヶ池PAでスマートICの社会実験が開始【国土交通省、豊田市】

●平成19年度省 CO2 型都市づくりのための面的対策モデル事業の採択について

【環境省】

●仙台駅周辺地区の交通環境改善のための検討を開始【仙台市】

●地域省エネルギービジョン策定等事業策定委員会【三郷市、八潮市】

●荒川区環境交通省エネルギー詳細ビジョン策定委員会のお知らせ【荒川区】

●「大阪市低公害貨物自動車リース制度」の利用者募集【大阪市】

●「常時記録型ドライブレコーダー」の運用を開始【大阪市】

●ノンステップ連節バス「Citaro G」を神奈川中央交通に納入【三菱ふそう】

●リチウムイオン電池搭載のプラグインハイブリッド車販売を発表【トヨタ自動車】

●東京駅における『発電床』実証実験について【JR 東日本】

●ICサービスで都市間の移動がさらに便利に【JR 東日本、JR 東海、JR 西日本】

●『広辞苑』第 6 版新収項目 10,000 より【岩波書店】

●福田首相が施政方針演説で路面電車導入の取組への支援に言及【首相官邸】

4. イベント情報

●「かしこいクルマの使い方」を考える交通まちづくりフォーラム KOBE

●環境科学トピック講座「東武鉄道の環境への取り組み」

●「徹底討論・温暖化問題」ーポスト京都議定書を見据えた日本の戦略ー

●国民対話: 鴨下大臣と語る希望と安心の国づくり

●第 32 回高度交通システム研究発表会

5. その他

●記事募集中！

=====

1. 寄稿①「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 18 回)

●「第2回EST普及推進フォーラムを終えて」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局 山下 恭弘】  
(交通エコロジー・モビリティ財団理事長)

先週金曜日、EST普及推進委員会の主催で「第2回EST普及推進フォーラム」を東京で開催しました。

ESTのフォーラムは、一昨年のESTスタート・セッション、昨年のEST普及推進フォーラムに続いて今年が3回目となります。過去2回は施策分野ごとに3つの分科会を設けましたが、今回は一つの会場で、ESTを地域で推進するために各セクターが何をすべきかについてじっくりと議論をしていただく形をとりました。また、わが国でも昨年来2050年を見据えた脱温暖化のビジョンの必要性が叫ばれていることから、長期的な視野での議論も行っていただきました。

今回のフォーラムで感じたのは、ESTの実現に向けた取組みは、交通システム施策やまちづくり施策、コミュニケーション施策などを組み合わせた総力戦であり、さらに、行政、事業者、市民が連携してこそより効果が現れるということです。

本日のフォーラムで得られたものを、参加された方々がそれぞれの地域、あるいはそれぞれの立場での取組みにお役立ていただくことにより、ESTの取組みがさらに深まり、また広まることを期待しています。

また、より多くの皆様にご参考にしていただくために、フォーラムの詳細を記録した報告書の全文をESTポータルサイト(<http://www.estfukyu.jp/>)で3月頃に公開する予定ですので、ご期待下さい。

最後になりますが、フォーラムの登壇者をはじめ、開催にご協力いただきました方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

2. 寄稿②「地方から全国に向けた情報発信！」(第 18 回)

●「豊中市の EST モデル事業について」

【豊中市環境政策室地球温暖化対策チーム 土井博司】

全国のESTモデル事業担当のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。豊中市におきましては、省エネルギー施策における運輸部門の切り札として、現在 2 年目の航海を概ね順調に航行しています。

さて、豊中市は大阪市北部に隣接し鉄道3路線とバスのネットワークがほぼ充足し、都市部の中でも公共交通が整備された都市です。しかしながら、公共交通の利用数が右下

がり続け、そして CO2 排出量の 3 割が自動車利用によって占められるなど、十分に公共交通を活かしてきれていない状況です。

そのようなことから本市の EST モデル事業の大きな柱を公共交通機関の利用促進を図るための普及啓発事業としています。その中心は小学校、幼稚園、保育所で実施している「交通環境学習」という学習プログラムです。まだモビリティマネジメントという言葉が普及していなかった平成 15 年度に、小学校の総合的な学習の時間で開始したのが始まりです。

この学習の特徴は本物を体験するということです。例えば小学校への出前授業として実施している「クルマ大集合」では、燃料電池車や天然ガス自動車などの実物とそれらのクルマに携わっている大人と触れ合うことで、自分の知識を広げ、理解を深めています。その他、校外学習として実施しているイベント型の「豊中子どもエコクイズ大会」や市民環境展の来訪者のための輸送バス「エコラボバス」を利用した小学生による「エコラボバス車掌さんチャレンジ」など、多彩な学習プログラムを開発し、5 年間で幼児から小学生 6 年生まで、述べ 2500 名に参加いただいています。環境問題を楽しく学ぶことから興味を持ってその対策を家族と話しあってもらい、学校から家族へ、そして地域へと EST の概念を広げていっています。

子どもたちがイメージする未来ののりものは、地球環境にやさしいものです。EST を教えている我々が子どもたちにその必要性を教えられています。

---

### 3. ニュース／トピック

#### ●自転車通行環境整備のモデル地区を指定しました【国土交通省、警察庁】

国土交通省と警察庁は合同で、今後の自転車通行環境整備の模範となるモデル地区を、全国で 98 箇所指定しました。各モデル地区においては、「分離」された自転車走行空間を戦略的に整備するため、事業進捗上の課題に対する助言の実施や、交通安全施設等整備事業等により重点的な支援を行います。

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha08/06/060117\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha08/06/060117_.html)

#### ●鞍ヶ池 PA でスマート IC の社会実験が開始【国土交通省、豊田市】

国土交通省では追加インターチェンジの整備を促進することで、既存の高速道路の有効活用や地域経済の活性化を推進するために、建設・管理コストの縮減が可能なスマート IC (ETC 専用 IC) の導入を検討しています。「鞍ヶ池 PA スマート IC」は、地元住民の通勤・業務、買い物などの生活交通や観光交通の利便性向上、国道 153 号の混雑緩和などを目的に社会実験を実施します。

[http://www.city.toyota.aichi.jp/division\\_n/ah00/ah14/tanto/kuragaikesmartic/index.html](http://www.city.toyota.aichi.jp/division_n/ah00/ah14/tanto/kuragaikesmartic/index.html)

#### ●平成 19 年度省 CO2 型都市づくりのための面的対策モデル事業の採択について【環境省】

環境省では、都市のCO2排出量削減を目的とした集約型都市構造の構築のために必要な、自動車交通需要の抑制、公共交通の活性化、土地利用政策との連携策等の施策について、モデル事業を実施します。このたび、平成19年度省CO2型都市づくりのための面的対策モデル事業について、高知県高知市地域の案件を採択しました。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=9213>

●**仙台駅周辺地区の交通環境改善のための検討を開始【仙台市】**

仙台駅周辺地区は、東北の中核都市・仙台の重要な交通拠点であるJR仙台駅を中心として、最近、民間の開発整備が著しく、また地下鉄東西線工事も本格化している地区であるものの、その交通結節機能には様々な課題があります。また、平成19年1月に策定した「仙台市都市ビジョン」においても「創造」と「交流」の基点として位置付け、杜の都の玄関口として新たな顔づくりに向かうべきと示しています。そこで、本市では、仙台駅周辺地区の良好な交通環境づくりに向けた検討を開始しました。

<http://www.city.sendai.jp/toshi/kotsukeikaku/sendaieki/index.html>

●**地域省エネルギービジョン策定等事業策定委員会【三郷市、八潮市】**

三郷市は、八潮市と共同で、公共交通の利用促進によりCO2削減を図ることを目的とした、「三郷市・八潮市地域省エネルギービジョン策定等事業」を実施しており、今年度は3回の策定委員会を実施する予定です。主な調査内容は、「公共交通関連調査」、「道路渋滞対策経路分析調査」に分かれています。今後、検討状況ならびに報告書等も更新します。

<http://www.city.misato.lg.jp/contents/Hyou.asp?CONTENTNO=2685>

●**荒川区環境交通省エネルギー詳細ビジョン策定委員会のお知らせ【荒川区】**

荒川区では、「国土交通省環境行動計画モデル事業」の実施にあたり、交通部門のエネルギー消費量やCO2排出量を把握し、自動車利用削減に伴う環境改善効果を把握する調査の検討を行うため、荒川区環境交通省エネルギー詳細ビジョン策定委員会を2007年に設置しました。現在、策定委員会は第4回が開催され、検討が進められています。

<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/a016/d02400022.html>

●**「大阪市低公害貨物自動車リース制度」の利用者募集【大阪市】**

大阪市では低公害車とディーゼル車の価格差を国等の補助金を活用することにより、ディーゼル車と同程度の料金で、事業用トラックに低公害車を利用したい事業者にリースします。今回は天然ガス貨物自動車(中古車)1台の利用者を募集します。リース料は1ヶ月あたり68,470円(税込)です。

<http://www.city.osaka.jp/oshirase/kankyojigyo/html/info6100110801113193.html>

●「常時記録型ドライブレコーダー」の運用を開始【大阪市】

大阪市交通局では、事故防止対策及びエコドライブを推進する観点から、大阪市営バスに走行中の車内・車外の画像、音声、デジタルタコグラフデータ(車速・エンジン回転数・加速度等のデータ)を記録する「常時記録型ドライブレコーダー」を設置し、運用を開始します。

[http://www.kotsu.city.osaka.jp/news/houdou/h19/080110\\_drivererecorder.html](http://www.kotsu.city.osaka.jp/news/houdou/h19/080110_drivererecorder.html)

●ノンステップ連節バス「Citaro G」を神奈川中央交通に納入【三菱ふそう】

三菱ふそうトラック・バス株式会社は、メルセデス・ベンツ製のノンステップ連節バス「Citaro G」を運行予定の道路事情に合わせ改良し、神奈川中央交通株式会社に4台納入しました。「Citaro G」は、2つの車両を幌でつなぐことで、全長約18m、乗車定員は通常の路線バスの約2倍の131人です。これにより通勤ラッシュ時の輸送力が大幅に増大するとともに、環境保全、渋滞緩和などにも効果があります。

[http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/news\\_content/080115/080115.html](http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/news_content/080115/080115.html)

●リチウムイオン電池搭載のプラグインハイブリッド車販売を発表【トヨタ自動車】

トヨタ自動車は、1月13日(日)、2008年北米国際自動車ショーにおいて、2010年までに、リチウムイオン電池を搭載したプラグインハイブリッド車を、米国を始めとした地域でフリーユーザー向けに販売することを発表しました。搭載されるリチウムイオン電池は、トヨタ自動車と松下グループが共同出資している、パナソニックEVエナジー(株)の大森工場における量産化を検討しています。

[http://www.toyota.co.jp/jp/news/08/Jan/nt08\\_0102.html](http://www.toyota.co.jp/jp/news/08/Jan/nt08_0102.html)

●東京駅における『発電床』実証実験について【JR東日本】

JR東日本研究開発センター フロンティアサービス研究所では、駅における環境への配慮、省エネルギー化に関して、「発電床」の開発を独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構及びジェイアール東日本コンサルタンツ(株)と共同で進めています。今回、開発中の「発電床」の発電量と耐久性の向上を確認するため、昨年度に引き続き東京駅で実証実験を行います。

[http://www.jreast.co.jp/press/2007\\_2/20080105.pdf](http://www.jreast.co.jp/press/2007_2/20080105.pdf)

●ICサービスで都市間の移動がさらに便利に【JR東日本、JR東海、JR西日本】

東日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社及び西日本旅客鉄道株式会社の3社は、各社のICサービスを連携することにより、三大都市圏のスムーズな移動を実現します。また、東海道新幹線区間で「EX-IC(エクスプレスIC)サービス」を開始し、予め携帯電話やパソコンで予約すれば、「EX-ICカード」を新幹線改札機にタッチするだけで、東海道新幹線に乗車することができます。

[http://www.jreast.co.jp/press/2007\\_2/20071216.pdf](http://www.jreast.co.jp/press/2007_2/20071216.pdf)

●『広辞苑』第6版新収項目 10,000 より【岩波書店】

『広辞苑』第6版に新収項目として下記の語句が収録されました。

移送サービス / LRT / 国土交通省 / カーシェアリング / カーフリーデー / 交通基本法 / 交通権 / 交通需要管理 / 交通税 / 交通バリアフリー法 / コミュニティゾーン / コミュニティバス / スペシャルトランスポートサービス / 低公害車 / 低床車 / デマンドバス / 電気自動車 / 東京メトロ / トラム / 道路特定財源 / 燃料電池車 / ノンステップバス / ハイブリッド車 / バリアフリー / 路面電車

<http://www.iwanami.co.jp/kojien/>

●福田首相が施政方針演説で路面電車導入の取組への支援に言及【首相官邸】

福田首相は、第169回国会における施政方針演説において、路面電車を導入する取組みなどを支援すると言及しました。

<http://www.kantei.go.jp/jp/hukudaspeech/2008/01/18housin.html>

(地方の元気は日本の活力の源です。昨年11月に取りまとめた「地方再生戦略」に基づき、地方の創意工夫を活かした自主的な取組を、政府一体となって強力に後押ししてまいります。また、地方都市と周辺地域を含む圏域ごとに生活に必要な機能を確保し、人口の流出を食い止める方策を進めていきます。それぞれの地方が取り組む事業について、その立ち上がりを「地方の元気再生事業」として国が全面的に応援します。地方の情報通信基盤の整備を行い、市街地の中心部に公共施設や居住施設を集中したり、路面電車を導入する取組などを支援します。地域の防犯や子育てなど様々な課題に積極的に取り組むNPOの活動を応援します。)

---

#### 4. イベント情報

●「かしこいクルマの使い方」を考える交通まちづくりフォーラム KOBE

環境を考え、魅力ある神戸のまちと暮らしを創る交通とモビリティ・マネジメント(MM)

日時: 2008年1月30日(水) 14:00~17:00

場所: 神戸・西神南ショッピングセンター セリオ・ホール

主催: 財団法人ひょうご環境創造協会

<http://www.eco-hyogo.jp/event/detail.php?id=892>

●環境科学トピック講座「東武鉄道の環境への取り組み」

日時: 2008年2月7日(木) 14:00~16:00

場所: 埼玉県環境科学国際センター 研修室

主催: 埼玉県、東武鉄道

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BA30/news/H19news/071212/kouzamoushiko miuketsuke0801.html>

●「徹底討論・温暖化問題」ーポスト京都議定書を見据えた日本の戦略ー

日時:2008年2月16日(土) 13:30~17:30

場所:東京大学本郷キャンパス 安田講堂

主催:東京大学 IR3S

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/res/res5/ir3s/index.html>

●国民対話:鴨下大臣と語る希望と安心の国づくり

日時:2008年2月23日(土) 13:30~(90分を予定)

場所:アイリス愛知 2階 コスモス

主催:内閣府

<http://www8.cao.go.jp/taiwa/participant20080223.html>

●第32回高度交通システム研究発表会

日時:2008年3月7日(金) 13:00~17:50

場所:慶應義塾大学 新川崎タウンキャンパス

主催:社団法人 情報処理学会

<https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ITS32.html>

---

## 5. その他

●記事募集中!

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。EST、または「交通と環境」に関連する取り組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

→ E-mail:[EST@ecomor.jp](mailto:EST@ecomor.jp)(担当:市丸)

---

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局  
(交通エコロジー・モビリティ財団)

E-mail:[EST@ecomor.jp](mailto:EST@ecomor.jp)

ESTポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>